



# 釧路体協だより

第 68 号

発行 釧路市体育協会  
平成 27 年 3 月 31 日

平成26年度(第45回)

釧路市スポーツ賞

## 野田昇氏



永年にわたりソフトボール競技の大会開催及び協会の運営に力を発揮された釧路ソフトボール協会理事長：野田昇氏（71歳）が本年度（第45回）の釧路市スポーツ賞を受賞されました。

野田氏は、釧路ソフトボール協会（現釧路管内ソフトボール協会）創設時の昭和38年から選手として活躍する傍ら、昭和57年には公認審判員の資格を取得。以来、数多くの全道・全国規模の大会等を審判員として積極的に支えてこられました。

あわせて、これまで30年以上にわたり、監督・指導者として小学生から一般まで幅広く選手の

育成指導に当たられています。

とりわけ、昭和60年に釧路管内ソフトボール協会役員に就任以降は、大会誘致に卓越した手腕を発揮され、全日本女子1部リーグ戦をはじめ、様々な大会の開催、運営に尽力されました。

また、平成元年には釧路市ソフトボール協会設立の中心的役割を果たされ、役員を歴任されるとともに自ら協会の実務にあたり、豊かな経験と適切な判断力で協会組織の拡大、ソフトボール競技の普及、発展に努力を重ねておられます。

現在もなお、審判員はじめ選手や指導者の育成に情熱を持って取り組まれるとともに、グラウンドに立ち続け、釧路市のソフトボール界の発展に奔走されており、ソフトボール競技の振興に多大なる貢献をされています。

平成26年度釧路市スポーツ賞授賞式（釧路市教委主催）が11月21日、釧路プリンスホテルで行われました。表彰状を手渡した釧路市教委の北明教育委員長は、「率先垂範して生涯現役を貫く姿は後進の良きお手本であり、釧路市のソフトボール界に末永く語り伝えられる」とその功績を讃えました。

受賞者の野田昇氏は、「非常に光栄で重責を感じる。受賞を機にいっそう精進し、体が続く限りソフトボール普及発展のため尽力したい」と謝辞を述べました。

## 臨時評議員会（総会）開催される

釧路市体育協会創立70周年記念式典・祝賀会は11月14日（土）

平成27年2月5日（木）、釧路市柳町スピードスケート場で臨時評議員会が開催され、平成27年度に釧路市体育協会が迎える創立70周年のあり方について話し合われました。

会議では、創立70周年の意義を踏まえつつ釧路市のスポーツ振興をいっそう推し進めるため、釧路市体育協会が一致して各種の記念事業を行っていくことが確認されました。

事業の推進組織として、新年度早々に記念事業実行委員会を発足し、実働していきます。

主な事業として、式典、祝賀会、講演会の開催、記念誌作成等が予定されています。

各加盟団体が日頃から取組んでいる①愛好者拡大、②釧路市民へのアピール等に更なる弾みをつけるため、釧路市体育祭の運営にも工夫を凝らしていくこととなりました。

創立70周年という記念すべき節目において、釧路市体育協会のなすべき役割は大きく、寄せられる期待をはるかに超える成果を残していきたいものです。



臨時評議員会風景

# 第87回

# 日本学生氷上競技選手権大会

(氷上インカレ in kushiro 1/5・6・7・8・9)



釧路では4年ぶり5回目となる第87回日本学生氷上競技選手権大会（氷上インカレ）が開催されました。全国から113校、1,000名を超える選手・役員が釧路に集結。スピード、フィギュア、アイスホッケーの3競技で熱戦を繰り広げました。

年明け早々のビッグイベントであり、5日間で延べ約15,000人が観戦しました。日本製紙アイスアリーナで行われた最終競技のアイスホッケー決勝戦には1,083人もの観客が詰めかけました。

氷都くしろに集い、リンク上で躍動した若い力は、釧路っ子たちに大きな夢や感動を残しました。



魚網たおる

## 楽しい!ラグビー祭

鈞路市ラグビーフットボール協会 理事長 渡邊 憲一



2019 ラグビーワールドカップが、2019年9月にアジアで初めて日本で開催されます。札幌ドームも開催会場であり、迫力あるゲームがまぢかで観戦できると思います。こうした中ラグビーの普及を目指して、2013年から「ラグビー祭」を開催しています。このイベントは、ラグビーを通して仲間との助け合い、自ら考えて挑戦していく力を身につけ、ラグビー人口の底辺の拡大を目的としています。参加対象は、幼児から中学生までです。幼児は、ラグビーボールを使ったゲームやボールの手渡しなどで、ラグビーに触れてもらいます。小学生から中学生は、ラグビーのルールをもとに安全に競技が出来る様に、腰につけたタグ(短冊状の布札)を奪い合う「タグラグビー」を、チーム編成で練習をし、実際にゲームを行ないます。参加した生徒はトライ目指し白熱したゲームを繰り広げていました。昨年は、女子生徒のみのチームも参加してラグビー祭を盛り上げていました。参加者からは「楽しかった。ラグビーをやりたい」「ボールは投げにくかったが、おもしろかった。大人になったら試合に出たい」などの声が聞かれ、今後も継続していきます。

## 鈞路市ゲートボール協会の変遷と現況

鈞路市ゲートボール協会 会長 工藤 修



はじめに、昭和58年4月、愛好者約900名を以って、鈞路市ゲートボール協会設立。以来、30数年を回顧。平成8年、アジア大会、全道選手権大会、読売新聞社杯、日ゲ連会長杯、市長杯等々。悲喜こもごも、走馬燈の如く駆け巡る。さて、本年度の事業内容を列記すると、各級審判員研修会、世代交流会、市協会春・秋大会等の主催・共催、参加協力。冬季室内競技は、11月～翌4月まで、愛好者の健康増進、親睦交流で、「ダメよダメダメ 楽しみ 笑うゲート(門) 福雲如(ふくくものごとし)」。

日本生まれのゲートボールの環境も数多くの課題に直面し、「七重八重 歓声轟く コートにも人影まばら 秋風ぞ吹く」。会員の高齢化による諸問題、加入者の超減少で会員20名前後となったが、連帯感と意志の結集を図り、生きがいがづくり、健康長寿、楽しく友情を温めながら、現状を的確に把握し、情勢の変化に即応した活動としてゲートボールの普及振興、加入者促進に今後とも努めて参ります。結びに鈞路市体育協会の益々の充実・発展をご祈念申し上げて終わりと致します。

## 設立20年目に思うこと

鈞路市少林寺拳法協会 理事長 加藤 忍



平成8年に立ち上げた当協会は今年で20年目となり、現在2団体、会員数50名、指導員10名と減少傾向にはありますが、鈞路市大会等、定期行事も活発に行っています。

近時はシニア世代の入会もあり、地域活動も定着、少子化の影響はあるものの、次代を担う少年、少女会員も、着実に成長し、活動の中心となって日々修練に励んでいます。

今年も新年度の合同練習から始まり、昇級昇段審査会の実施等、内外的にも各行事が予定されておりますが、メイン行事として7月に少林寺拳法の第35回北海道大会を当協会が主管、担当する計画があります。

設立20年目を記念する大規模行事の実行で、忙しい年度とはなりますが全力を挙げて対応、「湿原の風アリーナ鈞路」を会場とした大会を成功させたいと思うとともに、今後も少林寺拳法の普及、アピールに努めて行きたいと考えています。

## 楽しいパークゴルフをめざして

鈞路市パークゴルフ協会 事務局長 松下 幸記



昭和58年に幕別町の公園で発祥したパークゴルフは、全国各地そして海外にも急速に普及の輪が広まり、老若男女の楽しいスポーツとして発展を遂げました。

日本協会としては、①自然を大切にすること②世代交流のスポーツ③安全で楽しいスポーツの三原点の普及の為に、指導者制度を設けて活動しております。

指導員の資格を取得しても「資格は免許ではなく」、あくまでも指導者としての自覚と認識をもって個々のプレーヤーに対してルール・マナーのアドバイス・普及指導を行う役割を有します。

パークゴルフの審判員はおりません。競技会において審判員は競技者です。すなわち、競技者自身が有利になるようなルール解釈はできません。

普及活動を重ねた結果、急速に増大した愛好者の中には、協会等の組織に加入せず、自由に楽しみたいとの思いから、家族や知人同士で楽しんでいる方が多くみられます。残念にもルール・マナーを知らないために、危険な行動も目につきます。更なる普及に努力を重ねます。

# 釧路市冬季体育祭総合開会式

## 5種目に2,500人が出場

第69回釧路市冬季体育祭の総合開会式が12月4日夜、釧路市生涯学習センターで開かれ、集まった100名の選手らが健闘を誓い合いました。

開会式では昨年覇者の優勝杯返還の後、大会長代理の関根誠生涯学習部次長は「氷都くしろとして冬季スポーツが確かに根付いていることは誇らしい」と挨拶しました。続いて大会委員長の張江悌治会長が「いよいよシーズンに入り、本番では大いに頑張してほしい」と激励しました。

最後に、釧路スキー連盟：阿寒JSC所属の福士真理恵さんが「今まで支えてくれた皆さんに感謝しながら、一戦一戦全力でプレーします」と、力いっぱい選手宣誓をしました。



優勝杯返還



大会委員長挨拶

釧路市長・市議会へ (12/26)

### 体育施設の補修、備品整備要請

釧路市体育協会は、新年度予算編成に向け、市内社会体育施設の補修改善や備品配備に関する要望書をまとめ、蝦名市長と黒木市議会議長に特段のご配慮を要請しました。

加盟15団体から上がった46項目の要望を盛り込んだ重点項目は、①湿原の風アリーナ釧路の施設・備品等の整備、②大規模運動公園内体育施設の計画的な補修と更新、③その他の施設の早期改修が柱で、新規要望は18項目。各競技団体からの体育施設の要望一覧も合わせて提出しました。

当日は張江会長のほか、北村、横地、足立、菅原副会長ら6名が出席。張江会長は、「スポーツこそ釧路市を明るくするもの。財政状況の厳しさは十分に理解するが、ご配慮を」と強く訴えました。



社会貢献活動 (12/20)

### 赤い羽根共同募金活動

赤い羽根共同募金活動への協力は当協会の継続事業であり、今年で5年目を迎えました。

今回はアイスホッケーアジアリーグ「日本製紙クレインズー日光アイスバックス」戦の開催会場である釧路アイスアリーナ前庭で実施しました。

加盟団体幹部はじめ理事ら多数の役員が、たすきをし、募金箱を携えて、応援や観戦に訪れた市民に協力を求めました。

正面玄関前で列を作って入場を待つ応援・観客の皆さんへの「釧路市体育協会です。ご協力をお願いします」との声に、ちびっ子連れの家族や多くの来場者が募金に温かく応じてくれました。

総額7,692円もの善意は、12月22日に釧路市共同募金委員会へお届けしました。



### 編集後記



錦織圭選手の活躍には目を見張る。世界の大舞台での彼の活躍は、それを見る私たち日本人にとっても実に誇らしい。メンフィスオープンでの大会3連覇、通算8勝目に続き、メキシコオープンでは準優勝とコンスタントに結果を出している。子供のころからの夢だったという「世界ナンバーワン」に迫りつつある▼テニススクールでは、単に技術の基本を押し付けられることなく、本人の良さである興味や発想に重点を置いた指導を受けた。ただし、「あきらめる」という行動や考え方については厳しく修正された▼「一つのボールをあきらめると、あきらめる癖がつく。やがて、自分が『あきらめた』ということさえ、分からなくなってしまう」▼彼の試合は、観客を魅了する華やかなプレーと同時に、「何かを起してくる」というワクワク感に満ちている。パワーや体格で圧倒してくる相手に対して分の悪い展開となっても、ついにはファイナルセットの試合を制する粘り強さをもつ▼「あきらめない心」は日常の小さな挑戦の積み重ねにより、確固に育つ。成功を評価する「ナイスキャッチ」「ナイスバッキング」などの声かけは大切である。しかし、結果が不成功であっても、望ましい意志と行動は認めてやるべきだ▼「もう一歩!」「惜しかった!」「ナイスチャレンジ!」。次につなげる意欲の湧き上がる言葉が響きあう練習風景や試合会場であってほしい。